AFO [ei ef ou]

VOL.1



企画・制作よろず集団AFO

AFO VOL.1 ★ もくじ

タツノコ情報：ガッチャマンPART-II進行中、ゼンダマンのおしい星人は、日本ウルトラマン(の人形)と戦っているとか?!

イ・ムジチ合奏団が、再び日本にやってくる。

ウルトラマン怪獣大決戦
ウルトラマンJとたたかった
怪獣の名前をお知えろ

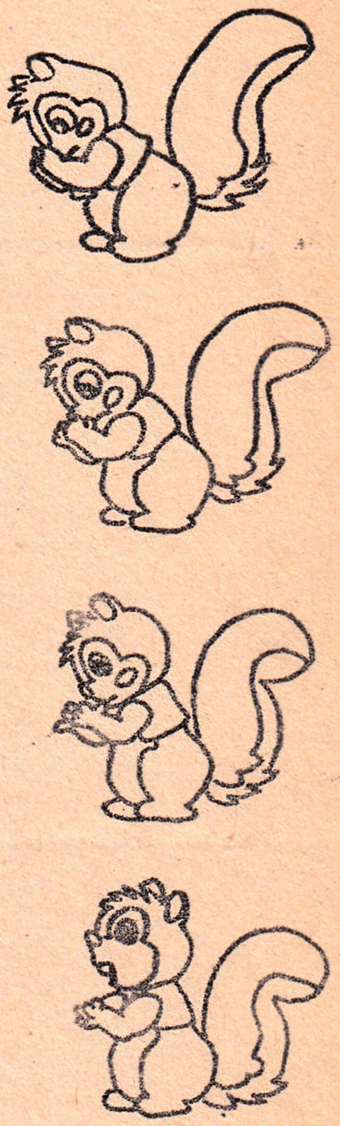
同じく、あのハナペチャ
バルタンはなんなんねん
(国会ぎじどうがこわれたのは、しらじらしいぞよ)あ。CMにもでてる。

今回の特別おりこみ　バルタン星人

次回は、ゼットンのおりこみと、ヤッターワンのおりこみの二本立てにしようかなと思っておりますが、あくまで思っているだけですから。



発刊コメント



まったく、そんな急に「発刊コメント」を書いてくれといわれてもねェ……。右に画いたのは月刊絵本別冊アニメーションにのっていた、森やすじさんが画いたリスのバーナー君です。

「AFO」を初めて一年くらいたちました。このような会誌みたいなもんを発刊できるのはとってもうれじいことです。シャーロック・ホームズじゃないけど♀♀♀こんなふうに人形を国辞苑のすみっこに画き初めてからもう２年近くたとうとしている。まだ半分もいってない俺はアニメが好きだ。なんとなく好きだ。アニメのことなんか知らない。わからないことだらけだ。でも俺は○や△や×をリーダーの本のすみでおどらせんのが好きだ。紙とえんぴつがあればアニメはつくれる。だれかが言ってた。

Animation“生気・活気・活発”すばらしい語じゃないな。絵がけしごむが人形が、動くはずのないものが動いた。これを見た人々はそれにAnimationこの語以外の語を思いつくことはできなかった。われら「AFO」の活動はいつもAnimationをおびていたい。 [湘]

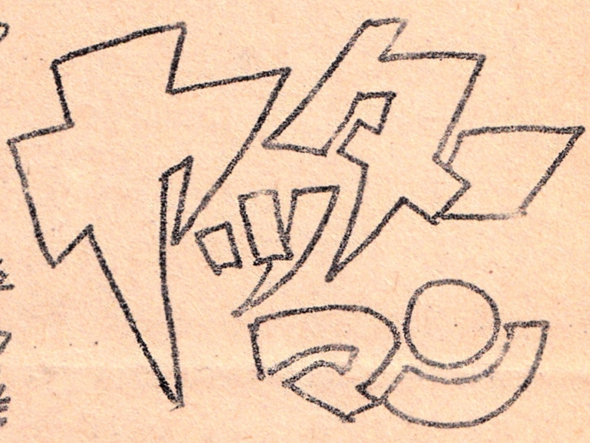
『AFOの由来』 町田知之.

（私は、偉くはないのに「…の由来」とかっこつけたかったの）

発刊だ。といいつつ、なぜAFOというのかを、はっきりさせておきましょう。

なんと、それは、いとも簡単。タツノコプロのタイムボカンシリーズ、NO.2のヤッターマン中にでてきた。三人組のメカのひとつ、アホーメカから、名をとったのである。

なんと、アホな名のつけ方でありましょうか。まぁ、別にいいのだけれども。



と、では私の発刊に当ってのコメントをひとつ「どこのファンジンも考えないであろう、視点から、物をみつめ、アニメだろうが、特撮だろうが、みんなひっくるめて、数少い同志の人たちと話し合い、でっちらがい（でっかいの意）ファンジンにしたいのだよん」

なんとも、かんとも、とにかく頑張ってやっていくんだもん、もん、もん。

といいつつ、ゴジラのテーマを口ずさみながら、くしゃみのひとつもして、まくをとじる。

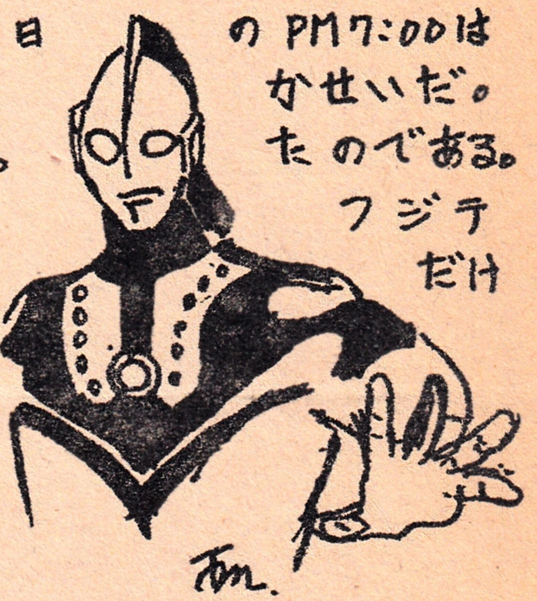
ハーハハハハ。バルタン笑いには、ほどとおいなぁ。トホホ。

（未来少年コナン映画化。「走れ！飛べ！戦え！ー」と熱血そのものですなぁ）

ウルトラマン大あへい　第1回

ウルトラマンについて書きたい事は山ほどあるのだが。ひとつ、ひとつが、バラバラになってしまうのでは、何をかいてもまとまりが、もてない。今回は、ウルトラマンの生いたちを追ってみようと思う。

昭和41年1月2日。この日のPM7:00はTBSが、視聴率を32、2%もかせいだ。「ウルトラQ」が、はじまったのである。企画は、38年、夏頃からフジテレビの「WOO」(企画だけでおわった)と同時に「アンバランス」という視点から、特撮をとる企画をつくり。39年1月に「アンバランス」のタイトルも決定、ストーリーづくりがはじまった。ここでも、分かるのは、現在テレビドラマとちがい、ゆっくり企画に年月をかけている点である。円谷プロが、それだけ信用されていたのかも知れないが、、、。



「アンバランス」の一話　マンモスフラワーは、39年9月27日に撮影に入った。そして、4話目「206便消滅す」から、「ウルトラQ」とタイトル変こうとなり、全28本をとりおえたのは40年12月であった。　1年3カ月という月日をつかい「ウルトラシリーズ」は、はじまった。

ULTRA Q · ULTRAMAN · ULTRA SEVEN

RETURN OF ULTRAMAN · ZOPHY

ウルトラマンは、Qが　おわってすぐ企画に入った(撮影がおわってから)。ベムラー、レッドマンと名をかえ、41年3月22日に「ウルトラマン」と決定した。

Qとマンは、一本制作費が五百万、当時は1時間番組の予算相場が三百万くらいだったというから、Q・マンは、金銭面もめぐまれていたわけだ。

ウルトラQを、一歩すすめて、大型ヒーローの登場は、当時の子供(自分も含めて)らをテレビにくぎづけにした。画面に拡がる迫力と、斬新さ。毎回、毎回が、たのしみで仕方なかった。

なにが、そんなにも、自分らをかりたてたんだろう。今のテレビには、そんなものがないし。

子供にも、理解出来るドラマ。そして、痛かいなアクション、怪獣達の生命感(バルタン星人を、はじめて観た時なんか、本当にいる生物みたいで、夜がこわかったものだ)ひとつ、ひとつと、全体が、マッチして、生きものみたいな強さがあった。

ウルトラマンを、背けいに育ってきた、自分達は、昔の子供たちが、もっていたあこがれを一人のヒーローにおいただけ、いろんな評論家が「ウルトラマンをみて育った子供は、一人で何かをしない」とかいうが、それはちがう、純な心で、あこがれていたんだ。ウルトラマンに。

次回は、ウルトラマンと怪獣の予定。

おれの本だなから

相棒のやつは、いろいろ書いてるけど、よくあんなに思いつくなぁと思う。おれは話すのは好きだけど（まったくくだらない空想を…）書くのはそんなにとくいな方じゃない。あと１ページ半をどうするかまよってる。おれの家いやおれのへやには、マンガの本が約４００さつ近くある。もう本だなには入らないからそのへんにつんである。（ずいぶんたくさんだなぁと思う人もいるでしょうがおれの知ってる人の中ではつつましいものです）その４００さつの本の中からおれはいったいどれほど多くのことを学んだかしれない。

ジージ秋山の画いた＝アシュラ＝という作品がある。まだ生まれて18年くらいしかたっていないおれにはこの作品の画くところのものはわからないただ――なぜ生まれてしまったのか？
どうして生き続けなければならないのか？
生まれてまもなく実の母に火でやかれ喰われそうになったアシュラ、そして人間の肉とその他の動物の肉を区別することなくむさぼり喰うアシュラ。生きるために＝人間＝を喰うこの作品にはもういやというほどでてくる場面である。

この作品からいくつか台詞をぬきだしてみたい。「赤ちゃん、赤ちゃん、食物がなんにもないなにか食べなきゃおちちがでない……んだ！
食べられる食べられる、おまえのぶんまでたくさ

アニメロマン

BELLADONNA ジュール・ミシュレ 魔女 より

BELLADONNA MÔ ICHIDO MI TAI NA

んたべるよ。」「あいつには人間の愛情なんてないのさあいつにあるのはにくしみと復讐だけだだがよ、おめえたちにもあいつの気持ちは、わかるだろう。あいつもおれもよ、おまえたちもよー生れてこなかったほうがよかったんだよ！ーおめえたちだって親に感謝できるかよーっ生んでくれてありがとうってよ＝生まれちゃったらよ生きていかなきゃななんねぇんだよなつれえよな生きていくのがよ！＝」ぬきだしたい台詞はまだまだあるけどやってたらけっきょく全ての台詞のたぐいを書きたくなるからこのくらいにしておくけどこの作品は、本当にあらゆる人たちに読んでほしいそして意見をきかせてほしいマンガをくだらないと思ってる世の大人たちに見てほしい。大学の教材として使ってほしい。この作品は―マンガ―としてしかみられないのだから。小説じゃ書ききれない、アニメ映画では見られたものじゃない(そのへんのグロ映画の比じゃないくらいのグロになる)やっぱりマンガなんだ。俺ははっきりといついかなる場でも言える。『俺のしゅみの1つにマンガがあります!』と……。 祐

アシュラが読んでみたい人がならずかえしてもらえるのならばよろこんでお貸しいたしますので「AFO」の田口祐えに申しつけください。

生れてこない方がよかったギャ

政治的思惑内の特撮

第1回目
〝海外版　怪獣王ゴジラ〟の巻

「ゴジラ」が、昭和29年11月3日に上映されてから、約二年半で、逆輸入されてきたのが「怪獣王ゴジラ」である。

「ゴジラ」のオリジナルと大きく違うのは、レイモンド・バー扮する新聞記者の語りで、ストーリーがすすんでいくということ。では、その中味は、、、、?

「ゴジラ」そのものは、核兵器のおそろしさを世に問う大作であるのに、米国編集版は、怪物ゴジラこわしとばかりに、核についての印象が、全く弱くなってしまっている。

「ゴジラ」では、たび重なる核実験の前に、おびえる人々と得たいの知れぬ舟の沈没、じわじわおそってくるゴジラの恐怖であるのに、海外版は、焼けただれた東京が出てきてレイモンド・バーが運よくたすかっているところからはじまってい



GODZILLA・GODZILLA×MECHAGODZILL

8月2日からのゴジラ大全集観ましたか。ゴジラとラドンX

る。これは、原爆がおちたあとのような地獄であった。しかし、海外版は、核のおとし子ゴジラのイメージを、古代からよみがえった大怪獣にしてしまっている。（単に）

米国の関係者は、大戦から十年とたたないうちに、批判的映画が出現したので、おどろいたのだろうか。

それとも、原爆を人前におとした国としては、「ゴジラ」がそのままでは、みれなかったのだろうか。

とにかく、"海外版　怪獣王ゴジラ"は、日本国内では、パッとしなかった。それもそのはず、日本語がわからん人がみている分にはいいが、あの映画、編集がヘタで、日本語がいってることが、場面とあってないことが多いのである。みていて、つかれるし、あれではギャグである。

米国と日本。政治的思惑がとびかう中で「ゴジラ」という映画一本にしてみても、大いなる見解の相違があらわれているのである。

1回目おわり

次回はギャグ調べ
「ゴジラ対メカゴジラ」にみる日米安保の問題の予定。

ヤッターマンは、エエで!!

(最終回は、つまらなかったが
なんと、最終話「アクテルロー
のたたかい」は、二本あった気。その
うちめることにしよう。)

「ヤッターマン」知ってるだろうなあ。エっ知らないんですか。ダメだなあ、知ってて下さいよ。超ギャグSFアニメなんですよ。チビメカ(ゾロメカともいう)が、すっごくかわいいじゃないですか。

現在放映中のゼンダマンとは、くらべものにならんほどおもろい。(つまらんのもあったが)



あっとおどろく、アイデアの数々もさるものながら、ドロンジョを中心とした三人組のアホさなんかも、前作タイムボカンの三人組よりも、はるかにおもしろい(同じ声だし、形もにているけど)のだ。

「ヤッターマンがいるかぎり この世に悪は栄えない!」

「ヤッターマン」の魅力、ゾロメカは毎回、よくできたものだ。はじめてみた時のおどろきは、新せんだった。虫歯とハブラシのたたかいなんかには、本当にビックリしました。そのうち、ゾロメカがメロドラマなんかもやったりして、メチャクチャでしたが、そこがまたよかった。



「ブタもおだてりゃ木にのぼる」って考えた人笹川ひろし
コイツも、アホらしさNO、1でした。
とつぜんでてくるのには本当にビックリ、そして、声がまたいいです。富山さんの声がね。ヤマトのススムの声より何百倍もいい声だと思うなあ。

現在放映中のゼンダマン、たまにいいのがあるんだが、やっぱりものたりない。ゾロメカや、ドッチラケ人形、おほめブタ、マンネリ鳥たちにもう一度会いたいよお。

吉田竜夫さんが亡くなって、タツノコがかわってしまうなんて、かなしいことがおきてはいかん。タツノコよ、ヤッターマンを、今一度（なにいいたいんだろ）
（未来少年コナンも好きなんよ。）

天にかわって成敗する！」
「う〜〜〜生意気な！警視庁のコマーシャルでもやってな」

只今、テレビ放映中!!?!

(このコーナーは、放映中の番組に、いちゃもんつけるコーナーです)

[え～い。後からゴチャゴチャ書いたから、読みにくいぞお]

ザ・ウルトラマン

こりゃ、円谷プロ。まじめに特撮でウルトラマンやっちくりぃ。アニメーションじゃ、迫力ないじゃんか。(といいつつ観てたりして)
「ヒカリ、ヒカリ」とムツミの声が、うっうっ
(アニヤは、ありし日の森雪そのものであった)

ニュース解説

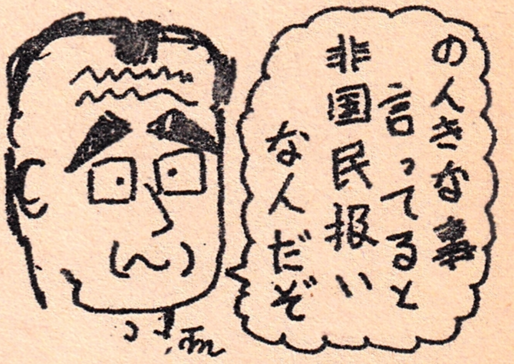
解説というよりも、のうがきの番組。
(見てない人が多いやろうな…と私も…)

新・日本紀行

いいですなあ、冨田さんの音楽。「マイティ・ジャック」もいいが、これもなかなか(とほめてしまった。)

ガンダム (メカニックデザイナーが ガッチャマンと同じなんだ)

こりゃ、ランドセルしょってどこへいくんだ。えっ言いだしだってェ



[国際児童年はいいけどね、日本は老人問題ひとつにしても……]

新、ルパン三世

ホッ。なんだお猿のおけいこごとか。友人のK君が東京ムービーへいったが、(本当にいったのかは疑問)「大塚氏がどうの」としか話してくれんかった。

銀河鉄道999（エメラルダスが出るというので映画をみた）
映画、よかったねェ。さあテレビはどうなるんだろうねエ。（テレビ観たことないんだった）

あとがき

［日本アニメ情報…
来春公開予定「母をたずねて三千里」上映時間1時間46分ぐらいだとか。結局TV放映の短縮版なのよ。］

結局、南極、なんといってもつかれたあ〜〜〜。（プチーパフみたいだ）

MEMO

企画・制作 よろず集団AFO

1979年9月14日発行

がうが、CMに出てくるバルタン星人、バルタン星にかえろ！